

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社アスモ
【英訳名】	ASMO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長井 尊
【本店の所在の場所】	大阪市住之江区北加賀屋五丁目7番30号
【電話番号】	大阪06（6683）3101
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室室長 岡田 秀樹
【最寄りの連絡場所】	大阪市住之江区北加賀屋五丁目7番30号
【電話番号】	大阪06（6683）3101
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室室長 岡田 秀樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期連結 累計期間	第39期 第3四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	7,002,298	10,767,533	9,872,253
経常利益(千円)	536,553	1,441,516	821,273
四半期(当期)純利益(千円)	446,036	1,271,721	768,143
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	501,587	1,358,591	869,099
純資産額(千円)	1,937,127	3,540,022	2,304,639
総資産額(千円)	3,415,243	5,345,365	4,087,359
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	3.18	9.07	5.48
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	52.1	64.1	51.8

回次	第38期 第3四半期連結 会計期間	第39期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	1.00	3.10

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第38期第3四半期連結累計期間、第38期につきましては、割当対象者の退任により平成24年12月19日をもってストック・オプションが全て消滅し、潜在株式が存在しなくなったため記載していません。第39期第3四半期連結累計期間につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社アスモ）及び連結子会社6社により構成されており、食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品販売をはじめ、主に高齢者福祉施設における給食の提供、介護福祉施設の入居斡旋及び訪問介護、外食店舗の経営、財産等の管理及び有料老人ホーム等入居一時金の保全を行う信託事業、介護事業等と相乗効果が期待できる少額短期保険事業を主な内容として事業活動を展開しております。

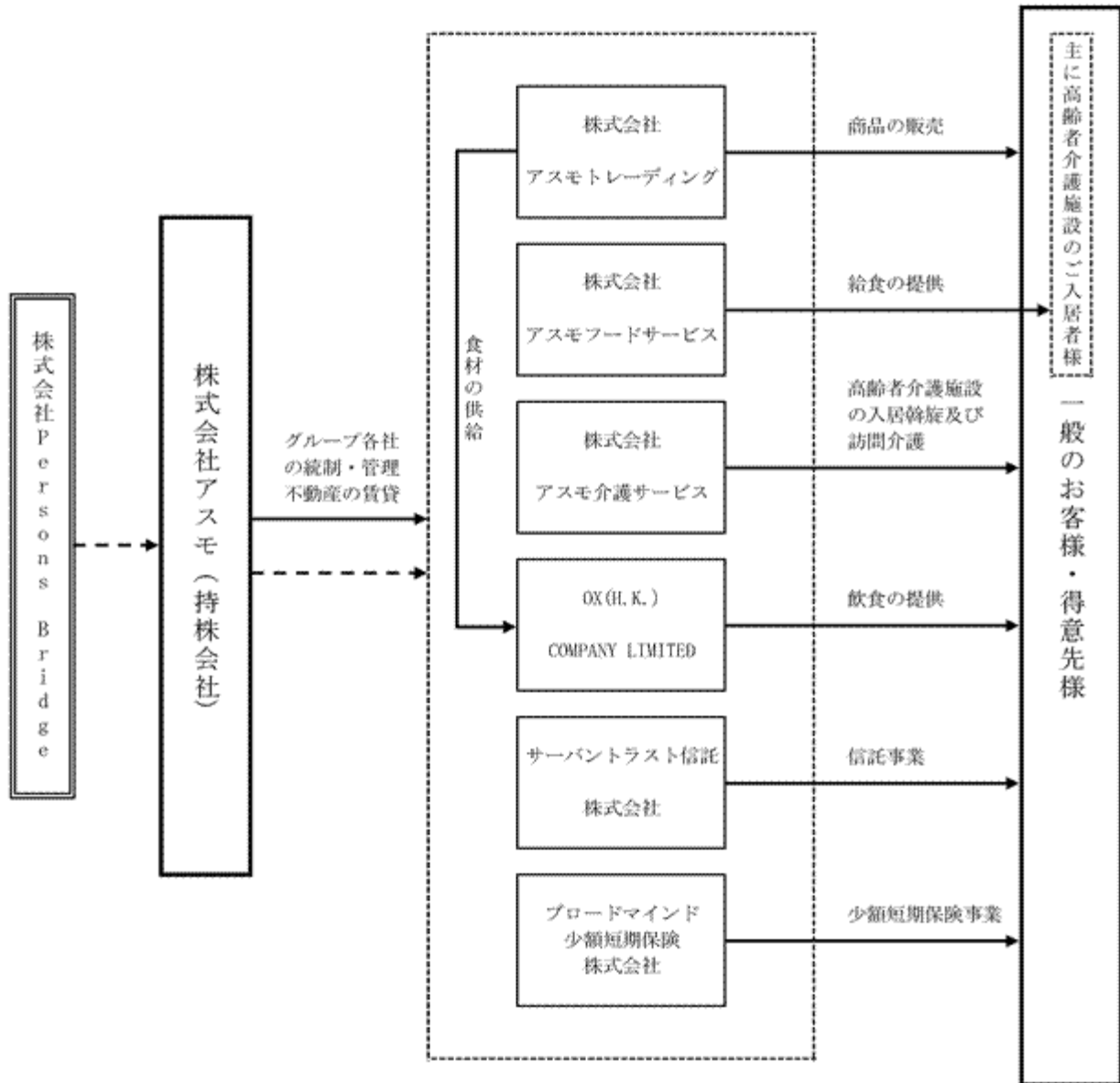
なお、当社は平成25年4月1日付で、当社が営む卸売事業及び給食事業を会社分割により当社の100%子会社に承継いたしました。また、当社は持株会社として、事業目的を持株会社制移行後の事業に合わせて変更しております。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

当社グループは、平成25年4月1日付の会社分割に伴って、第1四半期連結会計期間より経営管理区分の見直しを行い、以下のようにセグメントを変更しております。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ各社の統制・管理、不動産の賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス)	高齢者介護施設の入居斡旋・訪問介護事業所の展開	
OX(H.K.)事業 (OX(H.K.) COMPANY LIMITED)	香港において、外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	信託事業
	(ブロードマインド 少額短期保険株式会社)	平成25年12月27日付けでブロードマインド少額短期保険株式会社の株式を取得したことによる連結子会社化に伴い、新たに少額短期保険事業に進出いたしました。詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」をご参照ください。なお、ブロードマインド少額短期保険株式会社のみなし取得日を平成25年12月31日としているため、当第3四半期連結累計期間については、四半期貸借対照表のみを連結し、四半期連結損益計算書は含めておりません。

事業の系統図は、次頁のとおりであります。



モノ・サービスの流れ →

資本関係 - - - →

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や日本銀行による金融緩和などの効果により円安・株高が進行し、企業収益や個人消費に改善の動きが見られるなど、緩やかな回復基調となりました。

しかしながら、欧州債務問題や新興国経済の成長鈍化など世界経済の下振れ懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いています。

このような状況の下、当社グループは、平成25年4月1日付でそれぞれの事業分野における迅速・的確な対応、事業分野に適応した人材の育成・教育・採用、事業分野に特化した判断による業務の効率化、経営責任の明確化、将来を担う経営者の育成を目的として、卸売事業を営む(株)アスモトレーディング、給食事業を営む(株)アスモフードサービスを新設分割の方法により設立いたしました。

今後、当社は持株会社として経営戦略業務に特化し、各子会社は前述新設分割の目的を達成することで事業規模の拡大と経営基盤の強化をはかり、グループ全体の企業価値の向上に努めてまいります。

また、今後の介護事業等との相乗効果を見込み、平成25年12月27日付けでブロードマインド少額短期保険株式会社の株式を取得したことにより連結子会社化し、新たに少額短期保険事業へと進出いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高10,767百万円（前年同四半期比 53.8%増）、営業利益1,423百万円（前年同四半期比 165.7%増）、経常利益1,441百万円（前年同四半期比 168.7%増）となり、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は、1,271百万円（前年同四半期比 185.1%増）となりました。

主なセグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、当社グループは、平成25年4月1日付の会社分割に伴って、第1四半期連結会計期間より経営管理区分の見直しを行い、以下のようにセグメントを変更しております。また、前年同四半期情報に関しましては、売上高、売上原価と販売費及び一般管理費の金額を遡って正確に抽出することが実務上困難なため、開示を行っておりません。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ各社の統制・管理、不動産の賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス)	高齢者介護施設の入居斡旋・訪問介護事業所の展開	
OX(H.K.)事業 (OX(H.K.) COMPANY LIMITED)	香港において、外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	信託事業
	(ブロードマインド 少額短期保険株式会社)	少額短期保険事業

アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、穀物価格高騰による飼料価格の上昇や円安の進行による原材料輸入価格の上昇、原油高による運送・保管料等の上昇が依然として続いており、仕入コストが増加していましたが、第2四半期連結会計期間より販売価格に転嫁させることができるようになりました。

また、販売に関して低価格商品中心の販売が増加し、中でも当初の予算と比較して冷凍ポークの販売が増加したこと、お客様のニーズにあった購買・販売がきちんとできたこと、当社の特徴であるメキシコ産商品の新たな供給先の獲得により需要に見合った購買ができたことで他社との差別化を図り、安定的な取引を継続すること等ができました。

さらに、通信販売の売上が予想以上に伸び、新たな柱として今後は、確立していくことができると考えております。

今後は、メキシコ産商品に加えて米国産牛肉や畜種の取扱いを増やし、合わせて当社独自の視点により日本のマーケットに見合った商品を開発することで、既存顧客の満足度の向上と新規顧客の拡大で販売の増加に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,726百万円、セグメント利益（営業利益）は、7百万円となりました。

アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、積極的な営業活動により受託施設数が、前連結会計年度末と比較して当第3四半期連結会計期間末現在27施設増加し、264施設（前年同四半期末時点は230施設）となりました。

また受託先につきましても、高齢者施設以外で「官公庁の食堂・大学の学食・病院における食事提供」など、様々な業態にお食事を提供しております。

さらに、今後の海外における給食受託業務の取り組みに向けて、連結子会社のOX（H.K.）COMPANY LIMITEDにてスタッフとして研修を受けております。

今後とも様々なお客様へお食事が提供できるように心がけ、よりお客様にご満足いただけるように努めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,975百万円、セグメント利益（営業利益）は、153百万円となりました。

アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、従来の高齢者介護施設の入居斡旋業務に加え、前期に当社100%子会社である株式会社アスモ介護サービスを設立し、訪問介護の分野に進出いたしました。

新たに開始しました訪問介護につきましては、事業の開始以来積極的な事業所の開設を進めており、当第3四半期連結会計期間末時点において、32事業所（大阪府内10事業所、埼玉県内6事業所、神奈川県内4事業所、千葉県内3事業所、東京都3事業所、他6事業所）を設置し、ご契約者数は1,361名となっております。

また、要介護認定の申請の代行や介護を必要とされる方が適切にサービスを利用できるように、居宅介護支援事業所を新たに8事業所開設し、訪問介護サービスとの連絡・調整を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,671百万円、セグメント利益（営業利益）は、914百万円となりました。

OX（H.K.）事業

OX（H.K.）事業におきましては、連結子会社であるOX（H.K.）COMPANY LIMITEDが、香港にて外食店舗を運営しており、当第3四半期連結累計期間において、新規3店舗を出店し、合計16店舗（6業態）を展開しており香港における当社の存在感を高める事に注力しております。

また本社機能の向上とセントラルキッチン機能の向上を図るべく本社機能を移転させ、売上の構成比率を飲食店収入だけでなく、香港に進出している日系飲食店向けの卸業務収入や香港進出を検討している日系企業へのコンサルティングなど多角的な収益構造を構築してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,347百万円、セグメント利益（営業利益）は、81百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、322名増加しております。これは主としてアスモ介護サービス事業において、訪問介護事業所が増加したこと等によるものであります。

なお、従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であります。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、セグメントごとの仕入、販売実績が次のとおり著しく変動いたしました。

なお、当社グループは、平成25年4月1日付の会社分割に伴って、第1四半期連結会計期間より経営管理区分の見直しを行い、以下のようにセグメントを変更しております。また、前年同四半期情報に関しましては、売上高、売上原価と販売費及び一般管理費の金額を遡って正確に抽出することが実務上困難なため、開示を行っておりません。

仕入実績

当第3四半期連結累計期間の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	前年同期比(%)
アスモ事業 (千円)	-	-
アスモレーディング事業 (千円)	1,756,066	-
アスモフードサービス事業 (千円)	1,877,065	-
アスモ介護サービス事業 (千円)	-	-
OX(H.K.)事業 (千円)	408,599	-
報告セグメント計 (千円)	4,041,731	-
その他 (千円)	-	-
合計 (千円)	4,041,731	125.5

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	前年同期比(%)
アスモ事業 (千円)	7,100	-
アスモレーディング事業 (千円)	1,726,724	-
アスモフードサービス事業 (千円)	4,975,731	-
アスモ介護サービス事業 (千円)	2,671,470	-
OX(H.K.)事業 (千円)	1,347,109	-
報告セグメント計 (千円)	10,728,136	-
その他 (千円)	39,397	-
合計 (千円)	10,767,533	153.8

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	600,000,000
計	600,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	151,451,750	151,451,750	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	151,451,750	151,451,750	-	-

(注) 発行済株式数のうち4,610千株は、現物出資(貸付金債権299,650千円)によるものであります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	151,451	-	2,323,272	-	2,336,010

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,242,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 140,197,000	140,197	-
単元未満株式	普通株式 12,750	-	-
発行済株式総数	151,451,750	-	-
総株主の議決権	-	140,197	-

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アスモ	大阪市住之江区北加賀屋五丁目7番30号	11,242,000	-	11,242,000	7.42
計	-	11,242,000	-	11,242,000	7.42

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清和監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	674,004	701,938
受取手形及び売掛金	1,288,914	1,706,298
商品	266,011	333,831
貯蔵品	11,957	13,084
その他	519,630	1,067,875
貸倒引当金	2,104	3,927
流動資産合計	2,758,414	3,819,101
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	575,331	691,292
有形固定資産合計	575,331	691,292
無形固定資産		
のれん	572,306	591,923
その他	2,242	6,833
無形固定資産合計	574,549	598,757
投資その他の資産		
その他	513,477	553,636
貸倒引当金	334,412	317,422
投資その他の資産合計	179,064	236,214
固定資産合計	1,328,945	1,526,264
資産合計	4,087,359	5,345,365
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	395,497	500,352
未払金	425,124	567,831
未払法人税等	199,427	141,234
賞与引当金	116,047	116,528
返品調整引当金	8,051	5,235
その他	590,110	422,293
流動負債合計	1,734,258	1,753,476
固定負債		
長期借入金	8,974	5,813
退職給付引当金	31,397	37,091
その他	8,089	8,960
固定負債合計	48,461	51,865
負債合計	1,782,720	1,805,342

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
資本剰余金	2,374,344	2,374,344
利益剰余金	2,600,681	1,328,960
自己株式	42,303	42,350
株主資本合計	2,054,631	3,326,306
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	60,830	97,498
その他の包括利益累計額合計	60,830	97,498
少数株主持分	189,176	116,218
純資産合計	2,304,639	3,540,022
負債純資産合計	4,087,359	5,345,365

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	7,002,298	10,767,533
売上原価	5,048,208	7,493,057
売上総利益	1,954,090	3,274,476
返品調整引当金戻入額	10,193	8,051
返品調整引当金繰入額	5,171	5,235
差引売上総利益	1,959,111	3,277,292
販売費及び一般管理費	1,423,253	1,853,534
営業利益	535,858	1,423,757
営業外収益		
受取利息	102	1,312
為替差益	6,908	14,562
その他	4,516	6,858
営業外収益合計	11,528	22,733
営業外費用		
支払利息	8,017	3,533
その他	2,816	1,441
営業外費用合計	10,833	4,974
経常利益	536,553	1,441,516
特別利益		
固定資産売却益	19	-
負ののれん発生益	-	84,582
特別利益合計	19	84,582
特別損失		
固定資産売却損	36	5
固定資産除却損	-	718
賃貸借契約解約損	-	2,057
会員権売却損	804	-
和解金	1,300	-
その他	-	735
特別損失合計	2,141	3,516
税金等調整前四半期純利益	534,431	1,522,581
法人税、住民税及び事業税	50,965	243,624
法人税等調整額	-	27,670
法人税等合計	50,965	215,953
少数株主損益調整前四半期純利益	483,465	1,306,628
少数株主利益	37,429	34,907
四半期純利益	446,036	1,271,721

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	483,465	1,306,628
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	18,121	51,962
その他の包括利益合計	18,121	51,962
四半期包括利益	501,587	1,358,591
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	455,278	1,308,389
少数株主に係る四半期包括利益	46,309	50,201

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、株式会社アスモレーディング及び株式会社アスモフードサービスを連結の範囲に含めております。

これは、平成25年4月1日付で当社を分割会社とし、当該会社を新設会社とする分社型の新設分割によるものであります。

また、平成25年12月27日付でブロードマインド少額短期保険株式会社の株式を取得したことにより、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。なお、平成25年12月31日をみなし取得日としたため、四半期貸借対照表のみを連結し、四半期損益計算書は含めておりません。

(持分法適用の範囲の重要な変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
従業員(1名)	56千円	-千円
堂島ホテル(株)	154,823	17,738
計	154,879	17,738

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	44,068千円	67,517千円
のれんの償却額	22,232	52,833

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当に関する事項
該当事項はありません。
2. 株主資本の金額の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結損益計算書計上額
	卸売事業	外食事業	給食事業	介護事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,357,070	978,065	4,358,410	308,752	7,002,298	-	7,002,298
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,290	-	848	-	9,138	9,138	-
計	1,365,360	978,065	4,359,258	308,752	7,011,437	9,138	7,002,298
セグメント利益	44,479	77,797	527,235	90,915	740,427	204,568	535,858

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	740,427
セグメント間取引消去	2,996
のれんの償却額	18,270
全社費用(注)	188,741
たな卸資産の調整額	553
四半期連結損益計算書の営業利益	535,858

(注)全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、当社はサーバントラスト信託株式会社の株式取得により連結子会社化しております。このことにより、当第3四半期連結会計期間におけるのれんの増加額は「その他」のセグメントにおいて、204,007千円であります。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)
	アスモ 事業	アスモレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	OX (H.K.) 事業	計	
売上高							
外部顧客への売上高	7,100	1,726,724	4,975,731	2,671,470	1,347,109	10,728,136	39,397
セグメント間の内部 売上高又は振替高	584,662	22,420	12,488	-	-	619,570	-
計	591,762	1,749,144	4,988,219	2,671,470	1,347,109	11,347,707	39,397
セグメント利益又は損 失()	337,893	7,192	153,911	914,160	81,538	1,494,695	35,737

（単位：千円）

	合計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額
売上高			
外部顧客への売上高	10,767,533	-	10,767,533
セグメント間の内部 売上高又は振替高	619,570	619,570	-
計	11,387,104	619,570	10,767,533
セグメント利益又は損 失()	1,458,957	35,200	1,423,757

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	1,494,695
「その他」の区分の損失()	35,737
セグメント間取引消去	35,200
四半期連結損益計算書の営業利益	1,423,757

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、平成25年4月1日付の会社分割に伴って、第1四半期連結会計期間より経営管理区分の見直しを行い、従来の「卸売事業」、「給食事業」、「介護事業」及び「外食事業」を「アスモ事業」、「アスモレーディング事業」、「アスモフードサービス事業」、「アスモ介護サービス事業」及び「OX(H.K.)事業」に区分し報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、変更後の区分方法により作成した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、売上高、売上原価と販売費及び一般管理費の金額を遡って正確に抽出することが実務上困難なため、開示を行っておりません。

当第3四半期連結累計期間のセグメント情報を、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成した情報は次のとおりであります。

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	卸売事業	外食事業	給食事業	介護事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,726,724	1,347,109	4,975,731	2,671,470	10,721,036	46,497	10,767,533
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,420	-	12,488	-	34,908	-	34,908
計	1,749,144	1,347,109	4,988,219	2,671,470	10,755,945	46,497	10,802,442
セグメント利益又は損 失()	27,864	85,589	658,161	934,536	1,706,152	28,526	1,677,626

(単位：千円)

	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額
売上高		
外部顧客への売上高	-	10,767,533
セグメント間の内部 売上高又は振替高	34,908	-
計	34,908	10,767,533
セグメント利益又は損 失()	253,868	1,423,757

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

(2) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内
容(差異調整に関する事項)

利益	金額
報告セグメント計	1,706,152
「その他」の区分の損失()	28,526
のれんの償却額	22,232
全社費用(注)	231,635
四半期連結損益計算書の営業利益	1,423,757

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、当社はブロードマインド少額短期保険株式会社の株式取得により連結子会社化しております。このことにより、当第3四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は「その他」のセグメントにおいて、72,450千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「OX(H.K.)事業」セグメントにおいて、連結子会社の株式を追加取得したことにより、負ののれん発生益を計上しております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は当第3四半期連結累計期間においては84,582千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ブロードマインド少額短期保険株式会社
事業の内容 少額短期保険業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは、アスモ介護サービス事業等との相乗効果を見込みブロードマインド少額短期保険株式会社の株式を取得し子会社化いたしました。子会社で行う新たな事業の概要及び見込んでおります相乗効果は以下のとおりです。

当社に訪問介護をご依頼いただいたお客様へ身の回りの介護だけでなく、他の面を充足することで安心して介護をお受けいただきたく、万が一に備えた保険を提供いたします。

このことにより、他の訪問介護事業者との差別化がはかれ介護受託にも繋がるものと考えております。

介護をさせていただくお客様だけではなく、お身内様等へ万が一に備えた保険をご提供させていただくことで、ご家族全ての安全をお守りいたします。

このことにより、他の訪問介護事業者との差別化がはかれ介護受託にも繋がるものと考えております。

介護施設設置事業者様へ施設賠償保険や借家人賠償保険をご提供することにより、ご入居様が万が一施設に損害を与えた場合の安心をご提供いたします。

このことにより、介護施設設置事業者様とのかかわりが強まり、結果、介護施設入居者様の介護受託にも繋がるものと考えております。

訪問介護ヘルパーに対しての損害保険等を開発し提供いたします。このことにより、安心して介護に携わることができ介護の品質向上に寄与するものと考えております。

(3) 企業結合日

平成25年12月27日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

(5) 結合後企業の名称

ブロードマインド少額短期保険株式会社

(6) 取得した議決権比率

取得前の議決権比率 - %

取得後の議決権比率 100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年12月31日をみなし取得日としているため、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には、ブロードマインド少額短期保険株式会社の業績を含んでおりません。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価

企業結合日に取得したブロードマインド少額短期保険株式会社の時価 160,000千円

取得に直接要した費用

アドバイザー費用等 3,900千円

取得原価 163,900千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

72,450千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力に関連して発生したもの

(3) 償却の方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 OX(H.K.) COMPANY LIMITED
事業の内容 香港において、外食店舗の運営

(2) 企業結合日

平成25年10月25日

(3) 企業結合の法的形式

子会社株式の追加取得

(4) 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

(5) その他取引の概要に関する事項

当社は、平成25年3月31日時点でOX(H.K.) COMPANY LIMITEDの普通株式を議決権比率で51.0%所有しており連結子会社としておりましたが、平成25年10月25日時点で少数株主より相対取引にて株式を取得した結果、議決権比率は78.5%となりました。

これは従来以上にグループ戦略を迅速に実施することが可能となり、収益力の強化を図れると判断したものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引等として処理しております。

3. 子会社株式の追加取得に関する事項

(1) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	38,578千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	- 千円
取得原価		38,578千円

(2) 発生した負ののれん発生益の金額及び発生原因

負ののれん発生益の金額 84,582千円

発生原因

追加取得した子会社株式の取得原価が、追加取得により減少する少数株主持分の金額を下回ったことによるものであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	3円 18銭	9円 7銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	446,036	1,271,721
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	446,036	1,271,721
普通株式の期中平均株式数(千株)	140,209	140,209
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	平成18年8月1日に合併した株式会社オックスが、旧商法に基づき発行し、全て当社が承継した新株予約権 平成15年12月10日開催の臨時株主総会にて付与したストック・オプションについては、割当対象者の退任により平成24年12月19日をもって全て消滅し、当第3四半期連結会計年度末に残高はありません。	-

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、割当対象者の退任により平成24年12月19日をもってストック・オプションが全て消滅し、潜在株式が存在しなくなったため記載しておりません。当第3四半期連結累計期間につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

本社移転の件

当社は、平成26年1月31日開催の取締役会において、本社機能の強化と業務の一層の効率化を図るため、「定款一部変更の件」を平成26年3月26日開催予定の臨時株主総会に付議するとともに、本店所在地を「大阪市」から「東京都新宿区」に変更することを決議いたしました。

なお、当四半期報告書提出日現在、本社の移転時期を決定していないため、当連結会計年度の経営成績に及ぼす影響額を客観的に見積もることはできません。

資本準備金の額の減少及び剰余金の処分

当社は、平成26年1月31日開催の取締役会において、平成26年3月26日開催予定の臨時株主総会に、「資本準備金の額の減少及び剰余金の処分」について付議することを決議いたしました。

1. 資本準備金の額の減少に関する事項

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を全額減少し、その同額をその他資本剰余金に振り替えます。

(1) 減少する資本準備金の額

資本準備金	2,336,010千円
-------	-------------

(2) 増加する剰余金の額

その他資本剰余金	2,336,010千円
----------	-------------

2. 剰余金の処分に関する事項

会社法第452条の規定に基づき、上記1.の資本準備金の額の減少が効力を生ずることを条件として、上記の振り替えにより増加したその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えることにより欠損補填を行うものであります。

(1) 減少する剰余金の額

その他資本剰余金	2,424,299千円
----------	-------------

(2) 増加する剰余金の額

繰越利益剰余金	2,424,299千円
---------	-------------

3. 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分に関する日程(予定)

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1) 取締役会決議日 | 平成26年1月31日 |
| (2) 債権者異議申述広告 | 平成26年2月25日(予定) |
| (3) 債権者異議申述最終期日 | 平成26年3月25日(予定) |
| (4) 株主総会決議日 | 平成26年3月26日(予定) |
| (5) 効力発生日 | 平成26年3月26日(予定) |

4. その他

本件は「純資産の部」の勘定の振替処理であり、当社の純資産額に変動はありません。また、当社の連結及び個別業績に与える影響はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

株式会社アスモ
取締役会 御中

清和監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	井堂 信純	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	坂井 浩史	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	高橋 潔弘	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスモの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスモ及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成26年1月31日開催の取締役会において、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行うことについて平成26年3月26日開催予定の臨時株主総会に付議することを決議した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

会社の平成25年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表は、前任監査人によって四半期レビューが実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成25年2月14日付で無限定の結論を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。
- 2 . 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。